

グループホーム しじみ苑

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念である「1人はみんなの為に、みんなは1人の為に」を掲げ、ひとりひとりの思いを大事にし、お互いがお互いを思い合い、認知症という疾病があっても人格を尊重しその人がその人らしく馴染みのある地域で生活を続けていけるように支援している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		利用者が日頃集まってテレビを見たりするリビングの目につきやすい所に大きく手作りの理念を掲げて利用者やその家族、スタッフも常に確認が出来るように工夫している。また、ミーティングでは理事長も必要に応じ参加し、改めて意識付けが図れるよう話し合いを行い日々取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		平日頃から家族が来苑時はこまめに状況報告を行い様々な問題等が発生しても慣れ親しんだ場所で暮らしていけるように話し合いをしている。また、地域の人々に対しては、運営推進会議等の場で情報交換を行い季節行事などに参加したりする事で理解が得られるように努めている。また、小学校との交流学習や運動会の見学など、地域の人々との交流参加も行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		犬の散歩や小学校の下校時間など、苑の前を通る時や利用者の屋外散歩時には気軽に挨拶や声を掛けてもらえるようになっている。また、よく行く地蔵参りでは地蔵の管理をしてくれている人とも馴染み声を掛けてくれたり、話をしたりとグループホームを分かってもらえるように努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		場所的に恵まれており、近くの小学校では交流学習を設け、苑に交流を図りに来てくれたり、運動会の見学や地域の文化祭に作品を出品したりと連携が図れるよう努めている。

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特別な取り組みなど現状行っていない。		特別な地域の高齢者に対して、暮らしに役立つ事が無いかを話し合う取り組みは行っていないが、運営推進会議などを利用し、地域住民の代表者が参加しているの、地域交流に努め先々で何かしらのお役にたてるように取り組んでいきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年行われている外部評価で、アドバイスや指摘された所等は改善が図れるようにスタッフとも話し合いを行い活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は運営推進会議は半年毎に開催され、定期的な開催が出来ていなかったが、現在は確実に定期的な運営推進会議が開かれている。地域住民の代表者も参加しグループホーム内の状況報告やサービスの報告、活動報告が出来ており、意見交換等が行えている。その時にあった意見等は今後のサービス向上に活かせるように努めている。		ようやく形になってきているような段階の為、あまり家族や代表者からは意見が出ない事が多い。もっと何でも言い合えるような関係作り、環境作りに努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市町村との連携は、状況に応じて行き来しており、分からない事や改善した方がいい点などは情報交換が行えるような関係作りが出来ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などを通じて学習するが熟知していない為、家族や必要に応じて説明ができる体制ではない。		研修以外にも参考資料などを大いに利用し熟知出来るように努力する。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解がなかなか得られない認知症高齢者に対し、虐待に関する各職員の認識が求められるが、虐待にも色んなケースがあるので、資料等を利用し、改めて高齢者虐待を考える機会を設けたい。		日頃の日常業務内で事故防止を図るがゆえに結果、強い言葉による抑制と見なされてしまう事があるので、そういう事も虐待になるという事を認識してもらえよう注意し合い、また、ミーティングで改めて職員の言葉で利用者の心理状況を悪化させてしまう事もあるという事を言い合えるような環境作りもしていきたい。

グループホーム しじみ苑

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはまず、苑の方針を説明し認知症という疾病はいくら職員がアプローチしても困難な状況でも家族の力には勝てない事を説明し必ず協力してもらえるかどうかの十分な説明と理解・納得をして頂いている。また、来苑時には利用者の状況報告を行いサービス状況の報告や家族からの要望や疑問に思う事は遠慮せずに話し合いが出来るような環境作りを提供している。解約時も家族と苑のそれぞれの意向を十分話し合い理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が不満や苦情を訴えた時は十分本人と管理者が話し合いを行い、それを職員に結果・今後の対応を連絡している。また、家族にも報告し家族からの意見等も聞き反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な家族の面会があり、来苑時は随時状態報告をしている。遠方に在住の家族の場合は、利用者の希望もあり電話をし、その時に状態報告をしたり、毎月作成している手作りの苑だよりを発行し日頃の暮らしぶりを知らせている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置しているが開設から一度も投書された事は無い。しかし、直接、職員や管理者に以前は苦情が挙げられた事があり、その時は早急に代表者も交えたミーティングを行い問題点に対する改善方法を話し合う等の取り組みがある。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングには代表者も内容によっては参加し、運営に関する内容は代表者から職員に伝えてもらい、職員からの意見や提案も直接聞く機会を設けて運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>まず、グループホームで定められている職員数の配置を理解してもらい業務に支障の無いような勤務態勢が組めるようにしている。また、利用者や家族の状況変化、要望に対しては極力対応出来るよう状況に応じ調整出来るように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動や退職の際は利用者へのダメージを少なくする事を最小限にした。新たな職員には十分な引き継ぎを行い、利用者への不安感が内容に配慮している。</p>	

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員募集や採用に関しては、年齢や性別の制限はなく、ヘルパー2級の資格を取得している事を基本にしている。採用の際は、代表者と管理者の2名で行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育等については特に研修へは参加していない。しかし、機会がある毎に入居者への対応を話している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>出来る限り外部研修への参加を促している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>一部の同業者とは関わりがあるが、ネットワーク作りや勉強会等、相互訪問は行っていない。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレス軽減の為に、食事会や旅行等を勧めている。</p>		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来る限り個々の職員と関わり、職員について把握しようと努力している。しかし、まだ不十分だと思う。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活する上で困った事や不安に思う事を日頃からコミュニケーションを多くとるように心がけている。また、本人の希望等遠慮せず話してもらえるような雰囲気作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が緊張しないような雰囲気作りに努めている。家族間には色々な問題等を抱えている事が多いので、家族が不安に思っている事や困った事等遠慮せず気兼ねなく話しをして頂けるように心がけている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人と家族から苑に対する要望やどのような生活を送りたいか等を聴き、その中からその人に合ったサービスを提供・支援が出来るように努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がどのような今までの人生を送られてきたのか、認知症の高齢者には大きく反映しかかわってくる部分があるので家族から生活歴や性格、仕事等の経歴を多く情報を得るようにし、その中からコミュニケーションを多くとるように心掛け新しい生活環境に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全て何もかもを許容するのではなく、状況によっては時に怒ったり、泣いたり、笑う時はみんなで一緒に笑ったりと色々な事を共有し合えるような関係作りを築いている。人生の先輩でもありコミュニケーションの中で教えてもらったりその人の性格や生活歴等を考慮しながらその人に合った関係作りを築くようにしている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は定期的に来苑されており、家族との時間を過ごす事が出来ている。また、家族が来苑時は本人の日頃の状況をありのまま報告している。認知症という病をもった高齢者では、どんなに対応しても支援が困難な場合でも家族の協力で問題解決する事も多く、お互いが信頼関係が築けていけるようにコミュニケーションを多くとっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症という病気から、家族自身、変化していく親の姿を受け入れられなかったり、認知症という病識に対して理解が不十分だったりする事があるが、双方の関係が良い関係を築いていけるように上手くフォローしながら支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊を勧めている。外泊が難しくてもせめて外出を家族やそれ以外でも交流のある人達との関わりを多く持ってもらおう家族には伝えている。現状がなかなか外泊は厳しい。面会はこまめに来て下さっており関係が途切れないよう支援協力をお願いしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格上合う合わないという事もあるが、一緒に生活する中で生じてくる利用者同士の問題について、回避の為に遠ざけるのでは無く、職員が上手く間に入りフォローしながら関係が円滑に築けるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用契約が終了せざるを得ない状況になった場合に、家族にとっては次の受け入れ先の事を懸念される場合が多く、そんな不安感をもった家族には今後とも関係を続けていきたい旨を家族に説明し、縁があればまた新たに関係が築けていけるような関係作りを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で本人の思いや要望を把握するよう努めている。本人だけの情報では不十分な時は家族からも情報を得てアセスメントを盗るようにしている。また、職員間で情報交換をし情報を共有してひとりひとりに合った支援が出来るようにしている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や、その人によって何が一番思い出深い背景なのかをコミュニケーションや家族からの情報から把握するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃何気ない時間を過ごす中にも、何かしらのサインが現れる事があり、日頃からの個々の状態観察を注意深く行い、介護記録に些細な事でも記入するようにし、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や常日頃からの生活のリズム・パターンを把握し、本人・家族、ケアに携わるスタッフからの情報を交換・共有しニーズに対応した介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標・長期目標を掲げ、1ヶ月に1回のモニタリングをし3ヶ月毎の評価を行い介護計画の見直しをしている。また、突然の変化などが生じた場合は早急に計画書の変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活のパターンを観察し、些細な事でも気づいた事や状態の変化等を介護記録に記入し、情報をスタッフ間で共有し、その中から支援する上での見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ系列の施設(ケアハウス)が併設しており、行事等のイベントでは合同で取り組みを行ったりと事業所の多機能性を生かした支援を提供している。また、本人や家族の要望や状況によっては極力希望に添えるように送迎や病院受診等の支援をしている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じ、地域に民生委員や区長、市町村との交流も円滑に図れるようになり、季節毎の行事や地域の小学校とも交流学習の一環で毎年交流会を子供達と行ったり、運動会には見学に参加させてもらったりと協力しながら支援できていると思われる。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の今まで築き上げてきた人生の生活背景や毎日過ごす日々の中で生活のリズムやパターンをつかさどり、あげられるニーズや本人の要望、また家族の意向も聞き入れ情報交換を行い介護計画書に反映させている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は今現在特にない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を聞き、今までかかりつけの病院での受診継続を支援している。本人の状態変化や必要と判断した場合には必要とする専門医への受診承諾を家族や本人に説明を行って対応している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経内科を利用している利用者が半数以上利用している。日々の状態を観察し、定期的に受診の際は細かく状態を報告し、相談したり状態に合った薬の処方を行ってもらい常時診断が受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	個人病院であればかかりつけ医利用している人に関しては顔なじみの関係も築けるであろうが総合病院となると看護師と気軽に話したり、相談したりするような関係、環境は難しい。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院手続きの際は苑の意向を病院側に伝える。入院後、部を預かれるのは2ヶ月間であることを説明し、早期に退院出来るように情報交換を行っている。入院した際、本人・家族共々退院後の事をすごく心配・懸念されているので。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴い、看取りケアについての話しは出ているが、現状まだ明確になっていない。スタッフの中で看取りに対しての理解が得られていない部分もある。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>49と連動してきちんとスタッフ間と看取り等に関する話し合いを行う必要性が十分にある。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>環境の変化が認知症高齢者にとってダメージが大きいので、入院等で生活環境が変わる際は本人や家族にまた、新たな環境での支援を提供する関係者に十分情報交換を行い負担にならないよう配慮しながら精神面でのフォローを行うよう努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>認知症高齢者を支援するにあたり、スタッフ間にもストレス等が生じ、対応の際の言葉掛けに対していき過ぎる言動や自分本位な言動が見られる場合がある。そうゆう時は別のスタッフが上手くフォローをしたりと利用者に影響が無いよう臨機応変に傾聴的コミュニケーションを行っている。</p>		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日常業務をこなす上で、スタッフ間の心のゆとりが無い場合に、利用者本位では無く、スタッフ本位になる事もあり。日頃からそういう事の無いようにミーティングで話し合い、グループホームでの利用者との関わり方等改めて話し合う事で、業務にゆとりのある時には、利用者の要望を聞き入れ外出などの買い物支援等その人らしく生き活きと生活が出来るよう支援に努め		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や生活リズムにそった過ごし方が出来るようにさりげない対応を心掛けている。日によって、業務に追われて心にゆとりのないスタッフがスタッフ本位の対応を行う傾向もあり、その時は必ず他のスタッフがさりげなくフォローしたりと本人に精神的負担をかけないように配慮し対応に心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の中には今まで行きつけの美容院があり、そこに行きたいと希望している人は本人の望む美容院に行けるよう支援している。また、美容院以外でも買い物を希望される人にはその店へ連れて行き外出の支援を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる事と出来ない事を見極め、本人の負担にならないように食材の下ごしらえや材料切り等の役割提供を心掛けている。また、調理ができる利用者には1品程度調理して貰ったり、手作りのおやつを本人が作りたいと希望する時には作ってもらったりと活躍できる機会を提供している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては、本人の適量を見極めて行事時等に提供している。飲み物に関してはお茶の他ジュースや生姜湯など、季節にあった飲み物をバリエーションを増やして準備している。おやつもマンネリ化しないよう和菓子や、手作りのおやつなど工夫し提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンをつかみ失禁に至らないようトイレ誘導を行っている。各パターンシートを作成チェックしながら随時誘導を確実にしている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに行っている。本人の希望でまだ入りたくない時は本人の希望する時間帯で入浴して貰うようにしている。体調不良により入浴が出来ない時は清拭を行い清拭保持に努めている。皆、入浴は大好きで拒否する事は殆ど無い。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員の都合で業務の時間を区切る事は無く、本人が休みたい時には自由に休んでもらっている。また、習慣で臥床傾向にある利用者に対しては本人の苦痛にならないよう配慮しながら離床と臥床を適宜に行って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自主的に手伝いをされる利用者もいればそうでない方もいる。しかし、役割を提供すれば一生懸命にお手伝いをして下さい、本人のできる事・出来ない事を見極めて本人の負担にならないよう気分転換、活躍の機会を提供できるように役割等の提供を行うよう心掛けている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な利用者に対しては預かり対応を行っているが、その人その人の力量に合わせてお金を所持出来るようにまた、買い物に行った時などは支払いする際は見守りを行いながら使えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課で散歩を楽しまれる人もいれば、1人で出掛けられない方に対しては天候の良い日など近隣の地蔵参りや近くの小学校、苑周辺を散歩したり、希望時には買い物に連れて行ったりと気分転換を図っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の屋外レク時以外に家族とともに外出されたり、希望があれば希望する店に買い物に連れて行ったりと出掛ける機会を提供できるように努めてはいる。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した際は随時連絡が出来るよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設という印象が面会に来られる来訪者にとっては行きづらい等といった事が無いよう、緊張感を与えないよう気軽に来苑が出来るよう家族との関係作りもコミュニケーションをよく図るなど居心地良く楽しく過ごして頂けるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や資料などをもっと利用し身体拘束について、全スタッフが理解できるようミーティング等で話しをしていきたい。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	のびのびとその人らしく生活してもらいたいのでどうゆう状況であれ玄関に施錠はしないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置しエスケープの心配な利用者に対してはスタッフが見守りて対応し抑制をしないような環境作りを心掛けている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の利用者の殆どがリビングで過ごす為、必ずスタッフが見守りを行う様子を把握している。理解力が低下している利用者もあり、移動介助が必要な方で不意に1人で立ち上がるうとし目の離せない利用者もいるので転倒事故防止も兼ねた見守り・安全確認を行っている。また、居室で過ごす利用者に対しては定期的に部屋を覗きに訪室し様子を伺っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理可能・困難は別としてハサミ等の物品は制限せずに居室管理をして頂いている。針に関しては誤嚥等の事故も考えられる為、自己管理が可能と判断した利用者に対しては自己管理をして頂いている		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策マニュアルを準備し、各自把握してもらうようになっている。それ以外でも研修等の機会があれば研修も取り入れ学んでもらうように取り組んでいる。また、管理者を中心に知識ある物が他のスタッフにその都度教えたりと情報交換を行っている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練を定期的には行っていない。マニュアルを通じてスタッフに把握してもらうようにしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防・避難訓練を実施している。また、もし、火災等の災害が生じた際は地域住民に協力が得られるように運営推進会議の際に地域住民の代表者にその旨を伝え働きかけを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状況によっては家族との話し合いを行っている。また、常時、家族が面会に来られた際には最近の利用者の状況をお伝えし利用者の暮らしぶりを把握して頂けるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェック以外にもその時の利用者の状態によっては随時バイタルチェックを行い、排泄・水分・睡眠の各チェック表も準備し状況を把握できるようにしている。普段とは様子が違う異変や体調不良時には早急に病院受診を行い対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服用している薬はスタッフがきちんと把握出来るように処方箋をいつでも見て把握できるようにしており、それ以外でもスタッフには何の為の薬なのかを最低限理解するように呼びかけている。主治医や薬剤師からの注意事項等に関しては全スタッフに情報を伝えている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や便秘が及ぼす影響等をスタッフに情報を提供し予防の為に1日最低でも800ccを摂取するように心掛けている。毎食時、それ以外での水分量をきちんとチェック表に記録しこまめに水分補給をしている。それ以外で、食物繊維をうまく取り入れ運動も行っている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔清潔がどれだけ重要なかをまず職員自体が理解し、利用者にはそれをきちんと理解してもらえるように説明を行い、毎食後必ず口腔清拭を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は大体皆一緒であるが、少食など個人差もあるので、本人に確認しバランスの取れた食事を提供。好き嫌いのある利用者もいるが少しでも口にしてもらえるよう説明を行い何とか食べていただく事もある。水分量は一日最低でも800ccを目安に1000cc以上の水分摂取を行っている。水分量が少ない利用者に対しては、ゼリーによる摂取フォローを行ったりとその人に応じた対応をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを準備し、季節毎に流行る感染症については注意を払い予防に努めている。インフルエンザはかかりつけ医で予防接種を行い、疥癬・ノロウイルスの感染症では資料や研修などで知識を学び予防対応を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具に関してはその都度塩素系の消毒液で消毒を行っている。食材に関しては毎週日曜日に冷蔵庫チェックを行い賞味期限切れの食材がないかの確認と冷蔵庫内の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑の前にある道路はちょうど近くに小学校があり登校・下校で行き来する小学生や近隣に住む住民がよく苑の前を通過している。特別、玄関や周囲に工夫はしてはいないがすれ違う人と挨拶をし親しみを感じてもらえるようしている。家族には変な緊張感や圧迫感を与えないよう笑顔で出迎えるようスタッフに伝えている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節季節で利用者と一緒に作成した壁絵を飾ったり、共有のリビングにはいつも利用者が集まり過ごしている。ベランダからは朝日が入り夕方は沈む太陽が見えたりと自然を感じる事が出来る環境にある。設計上天井が吹き抜けになっており、暖かみのある広々とした圧迫感のない屋内となっている。		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの利用者がリビングラウンジへと集まり、テレビ鑑賞をしたりしている。1人になりたい時は自らが居室へ入りお昼寝したりと思い思いに過ごしてもらえるように心掛けている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用してきた馴染みの物品等を持ち込んで頂くように家族に説明を行い使い慣れたものや本人の望む物があれば持ち込んで頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に関しては利用者に直接確認を行いながらこまめに温度調整を行っている。臭いにより利用者が不快にならないよう、また閉塞印象の時期には特にこまめに窓を開けて新鮮な空気が取り入れられるように換気は十分に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化により、今まで出来ていた事が困難で福祉用具が必要となった場合は代表に相談を行い取り入れてもらったり、利用者自身の身体レベルにあわせ残存機能を生かした介助が出来るようミーティングで職員の情報交換を行い自立支援が出来るよう工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症にも個人差があり、その人その人にあつた声掛けやコミュニケーションにも工夫を行い、混乱等を招かないように工夫している。本人にあつた役割を提供し状況によってはさりげないフォローを行い一緒に活動する環境を大事にしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩を日課とする利用者もおり、好きな時間に苑周辺の散歩を楽しんでもらっている。それ以外の利用者も気候の良い日に少数で屋外散歩をしたり、ベランダで洗濯を干したり取り込んだりするのを手伝ってもらったりと活動する機会を設けている。		

グループホーム しじみ苑

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム しじみ苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)